

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4370300727 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 仁和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 聖心園 | | |
| 所在地 | 熊本県人吉市南町8-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月12日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年3月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年3月1日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの暮らしを大切にしてお互い助け合いながら生活をされていること。一日一日を大切にしながら、四季を肌で感じていただけるように室内環境や外気浴を行っていること。
外出や散歩の時間を多く持ち、地域の方々や家族の絆を大切にしていること。
母体施設と協働しながら安心安全の暮らしを提供できること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人仁和会の一角を占めるグループホームは、今年度は職員の異動という体制変更のなか、管理者を中心に自然の中での普通の暮らしを支援したいと、家族の協力を得ながら輝いた一瞬の思い出作りに祭りやドライブ等“今”できることに取組んでいる。平均年齢90歳以上という高齢化にあるが、エプロン姿で配膳を行ったり、モップがけにがんばる方等、残存能力を活かした支援は役に立つ喜びを見出し、生活の幅の広がりに繋げており、援助目標の一つである“生き生きとした暮らしの支援”の成果が表出している。また、連絡ノート等によるケア統一や合議による業務見直し等ソフト面からのケア向上を図り、入居者の身体機能低下によりハード面での整備等改善意識も高いホームである。今後も馴染みの職員により継続したケアが行われることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 老人福祉法の理念に基づき利用者の生活支援に万全を期し万人は神の前かけがえのない存在であるという法人理念のもと地域密着型サービスの意義に沿った事業所理念を設定し実践に向けて取り組んでいる。 | 法人理念のもと、運営方針や援助目標を掲げ、平均年齢90歳を超えた現状に、入居者の“今”出来ることを視点として、その時々輝きて過ごしてもらいたいと全員が思いを一つに真摯に取り組んでいる。家族と協力しながらの思いで作り等援助目標が反映され、職員は日々の生活の中で理念を確認したり、ケース検討会で理念を想起させながら振り返っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会役員の方や地域の方々との交流を図ったり清掃活動に参加している。また老人会より施設見学があり顔見知りになり挨拶や交流がある。地域の幼稚園や小学校の音楽会にも招待され出席している。 | 地域の中での生活基盤は充実しており、町内一斉清掃に利用者と参加したり、登下校する子どもたちとの挨拶や散歩中に近隣住民との歓談等地域の一員として活動している。また、幼稚園の慰問・小学生のボランティアスクールを受入れ、小学校の音楽会見学、老人会や民生委員の見学等世代間交流に取り組んでいる。地域住民が立ち寄り易い雰囲気としてい、庭先へのベンチ設置が進行しており、更に近隣住民とのつながりが強化できるものと思われる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 民生委員やボランティア、老人会の方々の研修の場として提供している。施設見学や入所希望者の方々が相談しやすい場を作り認知症の理解や支援方法など提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一度定期的に会議を開催し活動状況暮らしぶりなどを報告している。また会議の中で委員の方からの質問や意見などに対し詳しく説明を行ったり日常生活の中でのサービスに活かしている。 | 定期的開催する運営推進会議は、事前に詳細な資料を作成し活動・研修等の報告をもとにした意見交換や行政からの情報をホームのみならず法人としても福祉向上に反映させていることは行政が開催した徘徊模擬訓練への参加や法人としても認知症サポーター養成研修を開催したことに表れている。また、24年度から参加メンバー変更に伴い、この会議の目的を説明したり外部評価について説明されている。詳細な議事録から透明性のある運営体制であることや積極的な意見交換であることが確認された。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進委員会議のメンバーに市の担当者の参加があり実情を伝えており意見やお互いに情報交換を行っている | 行政が開催する集団指導や実地指導を通じてケア向上に繋げ、運営推進会議には毎回参加がありお互いの情報を発信し、今年度は行政開催の模擬訓練参加等協働している。また、介護認定更新時の立ち会い時等情報交換を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人の身体拘束をしないケアの実践に向けての全体研修に参加している。部署研修でも取り上げ各スタッフ研修報告書を他のスタッフの報告書も読み拘束をしないケアの理解と実践を行っている。またスタッフが身体拘束委員として法人の委員とともに情報を共有している | 法人の全体研修や身体拘束廃止委員会に参加し、ホームでも部署研修として報告書をもとに検討しており、言葉の拘束は透明拘束であること等言葉も含めて具体的な行為を全員が正しく理解している。家族の了承のもと夜間の転倒防止にセンサーマットを使用し、安全性や保安上門扉と玄関は施錠している。 | 地域の中にあるグループホームという意味で安全性に配慮しながら、所在確認の徹底や近隣住民の見守りネットワーク構築の可能性を探ること等を全員で再度検討されることを期待したい。不穏状態が解消されれば、門扉を開いておくことで、更に近隣住民も気軽に立ち寄れるものと思われる。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止について事務所に掲示している。法人の全体研修や部署研修に積極的に参加し知識を深めている。また利用者やご家族には認知症の理解や無理の無い関係が築けるように情報提供を行ったり談話の機会をつくっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 部署研修において日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。また必要性を関係者と話し合い活用できるように支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用前に施設見学をしていただいている。ホーム内を見ていただき管理者は契約に関して不安や疑問点などを尋ね十分説明して理解して頂くようにしている。改定時は変更のお知らせを文章と口頭で説明し理解納得して頂けるようにしている、 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族に運営推進委員会のメンバーとして参加して頂いている。ご家族が意見や要望を言えるように管理者や職員は日頃から何でも言える関係づくりを心がけている。また苦情受付先の紹介を園内に掲示し紹介している。 | 家族の訪問時に入居者の現状を報告し、要望等を引き出しケアサービスに反映させている。また、運営推進会議を問題提起の場として、クリスマス会や母体法人での夏祭り及び文化祭等家族同士の交流の場として生かされている。今年は文化祭では入居者・家族と職員とで演奏を披露する等ホームと家族及び家族同士の関係が良好であることが窺われる。玄関には意見箱の他、接遇マナー委員会が職員のマナーや改善点等のアンケート用紙を設置している。 | 家族の訪問も多く、家族との交流は充実したものであり、行事後に家族との意見交換の場を作ること等を検討し、家族に忌憚りの無い意見や要望を聴集の場として、今後もケアサービスに反映されることを期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回、全員出席の会議を利用し運営委員会の報告や運営に関する意見提案を聞いている。代表者や管理者は日常の談話の中で職員が意見や提案を言う事が出来るようにしている。 | 管理者は率先して業務に入り職員とのコミュニケーションに努め、毎月の運営委員会やホームではケース検討会の中で入居者中心のケアとするため業務の流れや勤務時間の見直し等合議により変更している。また、連絡ノートや夜勤ノート等を介した職員の提案等がケア統一となり、他種の委員会活動が上手く機能し、ケアサービスに反映させている。施設長・副施設長や事務長も、ホームの様子を確認に頻りにホームに足を運び、職員の提案事項に応え環境整備に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の勤務時間を把握しており勤務場所や労働時間を考慮している。資格取得後は正規雇用している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人全体として職員を育てる為の取組をしており園内研修、外部からの講師を依頼しての研修をはじめ外部研修への参加などや個人の実力にあった取り組みをしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 年6回の人吉球磨グループホーム連絡会の勉強会や交流会に参加している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前に施設を見学していただき生活の様子を見て頂いている。ご本人の気持ちを受け止めながら安心出来る暮らしの支援にむけての関係作りをしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用前に施設を見学していただき生活の様子を見て頂いている。家族の気持ち、不安、要望が言える雰囲気づくりを行い思いをしっかり受け止め柔軟な対応を心がけている。具体的に不安解消に向けて出来るところから一緒に考えていくことで信頼関係を築いていく。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所申込時の面談により今必要な支援を見極め他のサービス事業所の紹介もしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者一人一人の出来る力を見極めながら共に支えあい過ごしている。それぞれ利用者の方々は自分で出来ることを本人が役割とされ毎日の生活の中で継続されており共に助け合いながら生活を送られている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来ていただく事が多くその際情報提供を行っている。家族との時間を大切にさせていただき為に環境設定を行っている。外出の際家族の参加があったり行事(夏祭り・文化祭・クリスマス)の時も参加を呼びかけ、家族と共に過ごされている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの理容店の方においていただき本人の希望を聞きながら髪を切らせてくださっている。ふるさと巡りや外出の機会を多くし関係継続の支援を行っている。 | 家族・兄弟の訪問、お孫さんの結婚式や家族との旅行・墓参、昔から継承されているおくんち祭り・お城祭り等に家族の協力により出かけている。また、かかりつけ医の継続やシスターにより講和、馴染みの理容室からの訪問を楽しまれる等これまでの関係性の継続に取り組んでいる。入居者同士や職員との関係も構築していることは、お互いが労いあいながらの生活に表れている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の日々の身体状況や心理状況の把握に努め利用者同士が係わり合いが持てるように支援を行っている。また言葉での意思表示が出来ない方は意向をくみ取り代弁し利用者同士の係わりが温かいものになるように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者、家族の意向により契約を終了したケースについては今後の継続的な相談窓口になることを伝えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所前より本人の希望・意向を確認している。また日々の生活の中で本人の希望や意向など会話の中から見だし実現できそうな事は検討し実施している。 | アセスメントによる把握の他、日々職員の観察力を活かし、個々の思いを尊重しながら本人のペースでの生活を支援している。また、家族の思いや発語困難でも家族の情報を得ながら支援したり、残存能力を引き出しながら今できる事や言葉にできない部分も表情やしぐさで推察しながら本人本位になるよう努め、「田んぼを見たい」「〇〇の花が見たい」等会話での思いを実現している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時のご家族や事業所よりの情報提供を始めとして面会者との談話や生活の中からの話を聞いたり記録したりと情報を共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来ること、わかる事のアセスメントや毎日の健康チェック表、支援記録で御本人の望む暮らしが出来ているかをスタッフは随時話し合い、共有し、暮らしに活かしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングを行い、御家族の意見や希望を聞きスタッフ全員参加のケア会議で意見やアイデアを出しあい介護計画を作成している。 | 担当制として全職員が最近の様子や気にかかること等を持ちよるケース検討会議(月1回)や、半年毎にケアプランの修正の有無を見極め見直している。また、更新時にはADL・IADLやコミ能力等見直し、本人や家族の要望等を把握(遠方の家族には電話で意向を把握)しており、具体的且つ詳細な現状に即したプランを作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録には日中・夜間での様子やケアの実践、気づきを記入している。毎月のケア会議の資料として担当者が気づきシートを記入しスタッフが各利用者の状態を見ながらケア会議を行っている。記録による情報が共有されケアの統一、実践に活かされている。連絡帳にも 必要なことは書き情報の共有を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○1人ひとりを支える為の事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日常生活での利用者の思いや言葉を受け止め御家族との情報交換を行いながら計画を立て、実践できるように取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | お城まつりや おくんち祭りなど馴染みのある祭りに御家族にも呼びかけ一緒に出かけての思い出作りを楽しんでいただいている。季節を感じていただくために ドライブや散歩など天気をみながら 外出している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は家族の希望を大切にしながらかかりつけ医と連携を取っている。医師の病状説明は家族と共に聞くようにしている。遠方におられる家族へはその都度電話にて状態報告を行い記録している。 | 現在は希望により全員が母体医院をかかりつけ医としている。受診には職員が同行し、専門医については家族での対応として、医療機関へ情報を提供し受診結果を共有している。母体医院とは状態変化時の相談や薬の処方等連携を図り、バイタルチェックのみならず職員の気づきで早めの受診に繋げた事例もあり、日頃の観察力を発揮している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職は日々のかかわりの中で身体の変化や気分の変化に気を配りスタッフ間で情報を共有しホームの看護師へ報告を行い利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族と連携をとりながら受診時より付き添い入院時は情報提供をしている。入院中も面会や電話で病院関係者と情報を交換し早期退院に向けて協働している。家族の意向や相談を含め連絡を取り合っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の段階で重度化した場合や終末期のあり方を説明して同意を得ている。重度化の方については医師、家族、事業所で話し合いの場を持ち方針を共有している(ケアプラン) | 重度化時の対応指針を作成し入居時に説明している。看取り支援について研修に参加し、本人・家族の希望に添った心身の状態に応じた個別の対応としており、入居者によっては特養の申し込みをされている方もおられる。運営推進会議の中で、今後必要になってくるであろうグループホームでの看取り支援について説明し、母体医療機関や法人との連携で変化時や緊急時の対応を定めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 外部講習で消防署より蘇生法の実技講習を受けた。また部署研修でも取り上げた。緊急マニュアルを目につくところに掲示している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月1回避難訓練を行っている。訓練時にはベルを鳴らすため 近所には電話をかけたたり訪問してお知らせをしている。年1回消防署の方に来ていただき避難訓練の様子を見て頂いている。消防署への自動通報装置も設置している。災害時マップやマニュアルは目につくところに掲示している | 毎月の自主避難訓練では夜勤者として交代で経験し、全職員が通報・避難誘導を指揮する事で実践しながらの訓練を行い、近隣には訓練の周知を図っている。年1回の消防署立会いの訓練で消火器の使用実習し、日頃の火元(コンセント)チェックや業者による防災機器の点検を実施している。自然災害対応手順マニュアル及びマップを掲示し、重要持ち出し品を1ヶ所にまとめて保管している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人情報の保護、プライバシーの保護について目につくところに掲示している。また園内研修、部署研修において学んでいる。日常生活において、言葉かけやプライバシーに気を配り支援を行っている。 | 接遇の確認事項を掲示し、職員は笑顔で丁寧な言葉づかいでの話しかけに努めている。呼称については家族と相談し、同じ言葉でも一人ひとりで受け取り方が違う事を認識し、個々に応じた声かけや尊厳・プライバシーの確保に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中での会話の中から1人1人の思いや希望を聞き取っている。また思いを伝えやすいように信頼関係を築いている。自己表現できない方も代弁することで笑顔で談話に参加されている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | スタッフはひとりひとりのペースがあることを知っており大切にしている。天気がよい時は散歩の希望があれば付き添ったり好まれる事を大切にして支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洗面台にブラシを置きいつでも鏡をみながら髪をといて頂けるように配慮している。また髪にムースをつけて髪をといたり鏡をテーブルの上におき口紅を渡すと嬉しそうに口紅をつけられおしゃれをたのしんでおられる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食前のテーブル拭き食事の盛り付け配膳下膳茶碗洗いテーブル拭きなど利用者ひとりひとりが自分の役割とされ職員と協力しながら力を発揮されている。 | カロリー計算された法人厨房の献立・調理された食事をホームで盛り付け配膳しており、入居者は食器洗いやテーブル拭き等を一緒に行っている。玄関ホールにはメニューがボードに掲示され、嚥下状態に合わせお粥やミキサー食等での提供もある。職員は介助や見守りで一緒に食卓で食事を摂ったり交替で休憩に入っており、音楽が流れる中ゆっくりとした食事時間である。 | ご飯はホームで炊いているが、準備段階から入居者が食に関われる事は少なく、以前行われていたおやつ作りの再開等入居者の得意分野を発揮できる機会を検討頂きたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食事1人ひとりの食事量に気を配り状態を把握し情報を共有している。10時には牛乳+ココア牛乳+きな粉などのみやすいように工夫している。またテーブルの上に急須を置き食前食後も飲みやすいように設置し水分を摂っていただいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性をスタッフは学んでおり朝の洗顔時、毎食後、歯磨きや義歯の手入れを支援している。歯磨き後の水を吐き出しにくい方にも歯磨きを歯科より購入され口腔ケアを行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人ひとりのそぶりを感じ取ったり、排泄の訴えなどプライバシーを保ちながら支援している。 | 自分でトイレに行かれる方をさりげなく見守ったり、様子を察し手引き歩行や車椅子で誘導したりと一人ひとりに応じトイレでの排泄を支援している。夜間時は安眠対策に排泄用品の種類を検討し、ポータブルの利用もある。いずれも職員は気配を察し、早めの誘導で失敗を減らし快適な排泄となるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 各スタッフが、水分量を把握しており声をかけを行ったりテーブルに急須を置き自由に飲めるようにしている。また牛乳にきなこを混ぜたりと工夫している。体操や散歩など身体を動かしていただき便秘予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりのペースにあわせて入浴を楽しまれるようにしている。ご自分で手が届くところは洗っていただき、手の届かない部分を洗っている。立位が困難な方は二人で支援し安全にゆっくりと入浴を楽しまれている。 | 日曜日以外は毎日、一日三人位を目途に入居者の希望に合わせ支援している。個浴でゆっくりと支援しており、二人介助での対応や移動式のシャワーチェアの導入により安全な入浴に繋げている。夏場の発汗にシャワー浴を取り入れたり、ゆず湯やしょうぶ湯等を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 20時頃までホールでテレビを見たりお茶を飲まれたりとゆっくりとスタッフと過ごされその後、居室へ戻られ休まれる。居室の温度調節や加湿への配慮、寝具の調整などに配慮している。また、利用者の排泄タイミングにも気をつけ安全に安心して休まれるように支援を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局からの説明書をいつも見れるように個人ケース記録にとじている。薬の変更時は連絡ノートや各個人の記録で伝達している。服薬については、各利用者の薬を朝、昼、夕のビニール袋に分けて入れ服薬前、スタッフ2名で確認を行い服用支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 身体を動かす事が好きな方は、スタッフと共に掃除をされたり、茶わん洗いなどを積極的にされている。また、エレクーンを弾かれたり、洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きなどそれぞれの利用者の方々がご自分か進んで役割を持たれ継続的にされておられる。天気のよい時は、外に出て近所を散歩されたりと、気分転換をはかられている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は戸外に出て散歩されたりと地域の方々との交流を楽しみにされている。また、日常会話の中で、楽しみなことや希望などを把握し、計画をたてて実施している。また、家族や地域の協力を得ながら一緒に過ごされ家族との絆も大切にして支援を行っている。 | 体調や天候に合わせ庭のベンチで気分転換を図ったり、職員と手をつなぎ散歩に出かけている。又、季節の花の情報による見学や、地域の祭りには家族が車椅子をおして見物している。、バスハイクでは買い物等を楽しみ、入居者によっては家族との旅行やお孫さんの結婚式に遠くまで出かけられる方もおられる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で所持しておられる方が1名おられる。施設預かりの方も外出時やお買物、お祭りの時など手渡し使うことの支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者から電話をかけたいと希望があれば、スタッフが電話をかけ家族と話をされている。また、遠方におられる家族へ近況報告時に電話にでももらい話をされている。また、一家族の方は日曜日に定期的に電話をかけて下さりお話をされている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関や洗面台、食堂など四季折々の花を飾っている。また庭にも花を植え天気の良い日は四季を感じていただけるように配慮している。またホールからも木々の紅葉も楽しめたり通学の児童の様子やバス自動車など日常生活が見え居心地よく過ごされるように工夫している。 | 共有空間の畳スペースを取り外した(転倒防止)、ゆとりのあるリビングにはソファが置かれ、地元民謡の歌声や入居者の弾くエレクトーンの音が心地よい響きである。至る所に活けられた花や置物は季節感に満ち、庭の木々や草花でも四季の移ろいを感じる事ができる。住宅街の静かな環境の中のあり、温度管理や感染症予防に小まめな掃除を行い清潔で居心地良い共用空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食事の席は利用者同士の関係を考えながら設定している。ホール3カ所にソファを置いたりコタツを置いたり、また居室前にもソファを置いたり好きな場所で好きな時間を過ごされる様に工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時より家族・本人と相談しながら馴染みのタンスや椅子などを持ち込んでいただいている。また、家族の写真を飾られたり仏様をお参りされたりと利用者一人一人の生活空間を工夫している。 | 本人の馴染みのタンスや鏡台・椅子・テレビ等を家族の協力で持ち込み、出窓にお気に入りの物を置いたり自分の部屋作りが行なわれている。入居者・家族と相談したベッド配置や安全に配慮した家具のレイアウトで本人が使いやすく落ち着ける居室としており、職員と一緒に掃除したり、訪問時の家族も一緒にゆっくり広めの居室で過ごされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 浴室、廊下、トイレなどには手摺があり床はバリアフリーとなっている。各利用者の居室は花の名前と利用者名を明記している。トイレも居室近くにあり使いやすいものとなっている。居室内にも椅子やテーブルテレビなど安全に生活ができるように設置場所なども工夫している。 | | |